

編集委員会から

日本食品工学会誌のオープンアクセスとオープンデータアクセス

近年、国際的に研究成果のオープン化が求められるようになってきています。論文を無料で閲覧したり、論文の図表のデータを無料で利用できるようにする動きです。前者はオープンアクセスに相当し、後者はオープンデータアクセスに相当します。日本国内でも科研費などの政府関連の補助金の研究成果はオープンアクセス・オープンデータアクセスで公開することが求められるようになりました。

日本食品工学会誌では、年間4回の冊子の発行日（第1号は3月15日、第2号は6月15日、第3号は9月15日、第4号は12月15日）に査読付き論文をJ-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsfe/-char/ja/>) にて会員外の方にも無料で閲覧できるように公開しています。当初はこの無料公開を即時オープンアクセスと考えていたのですが、J-STAGE からフリーアクセスと判定されました。オープンアクセス論文とするためには著者以外の研究者にも論文の図表を利用できるルールづくりが必要とのことでした。そこで事前調査も含めて2年間かかりましたが、「日本食品工学会誌」オープンアクセス利用の手引きを作成し、編集委員会・理事会の承認を経て、2025年から査読付き論文をオープンアクセス論文として掲載が可能のように整備しました。

詳しくは同手引きをご覧くださいなのですが、Creative Commons License のBY-NC-SA（＝表示－非営利－継承）というライセンスでオープンアクセスとすることが可能です。オープンアクセス化できない図表を含む論文は従来どおりフリーアクセスでの掲載が可能です。日本食品工学会誌としてのセールスポイントは即時オープンアクセス論文も即時フリーアクセス論文と同じ掲載料としているところです。ページ数や円相場などで変わりますが、多くのオープンアクセス論文では掲載料に相当する Article Processing Charge (APC) は20万円以上です。それに対して日本食品工学会誌の会員向け料金はその6分の1以下となっています（刷上り10ページで3万2千円、2025年2月現在、「日本食品工学会誌」原稿執筆の手引きの付表1）。

オープンデータアクセスについてもJ-STAGE Data (<https://jstagedata.jst.go.jp/>) にて日本食品工学会誌掲載論文のデータが公開可能のように整備しました。「日本食品工学会誌」J-STAGE Data 利用の手引きをご覧くださいなのですが、掲載論文の図表データを公開することによって他の研究者が利用できるようにします。表やグラフのデータはCSVファイルでの公開ですので、大きなデータもダウンロードしやすい比較的小さなファイルになります。表計算ソフトにデータを貼り付ければ、自身を含む複数の研究者のデータを比較することも容易です。公開データを表計算ソフトのファイル形式にしなかったのはコンピュータウイルスの感染を防ぐためでもあります。J-STAGE Data でのデータ公開も Creative Commons License のBY-NC-SA（＝表示－非営利－継承）というライセンスで行っていただきます。一方、公開できないデータは公開していただかなくても結構です。日本食品工学会誌のJ-STAGE Data でのデータ公開では当面、データの掲載料を無料とします。実際は掲載作業に労力と費用がかかるのですが、オープンデータアクセスの促進のために当面、無料とすることを理事会で承認していただきました。

「日本食品工学会誌」オープンアクセス利用の手引きと「日本食品工学会誌」J-STAGE Data 利用の手引きは今号（第26巻第1号）の本会記事のページに掲載していますが、ご利用の際には学会ウェブページに掲載の最新版の手引きをご参照ください。食品工学に関する研究成果をオープンアクセス論文として発表される学術雑誌として日本食品工学会誌を候補にいただければ幸いです（上述のようにフリーアクセス論文としてでも掲載可能です。オープンならびにフリーともご投稿をお待ちしています）。

（新潟大学 田中孝明）